

# 被災地における教育復興の あり方について

岩手県教育委員会 教育長 菅野 洋樹

# 東日本大震災津波による 教育関係の主な被害①

## ○ 人的被害

	児童生徒		教職員	
	死亡	安否不明	死亡	安否不明
県立学校	47人	8人	1人	1人
市町村立学校	31人	5人	1人	2人
教育施設	—	—	1人	—
計	78人	13人	3人	3人

- 岩手県では、学校内にいて命を落とした児童生徒はなし
- 被災により両親ともに亡くした、またはひとり親だったがその親を亡くした児童生徒等は88人

# 教育関係の主な被害②

## ○ 物的被害

	学校施設被害	学校以外施設	合計
県立	1,682,349千円	54,128千円	1,736,477千円
市町村立	16,980,125千円	12,408,789千円	29,388,914千円



大槌町立大槌小学校 被害の様子



県立高田高校 被害の様子

# 震災津波発生当時の状況

- 用務員さんが避難誘導するなど、マニュアルを越えた行動が命を救う
  - 自らも被災した県立高校の生徒が、自主的に避難所における炊き出しや清掃などのボランティア活動を実施
- ⇒地域と一体となった教育振興の取組の成果

学校が避難所に(県立高校)



# 学校再開に向けて

- 5月10日までに、県内すべての公立学校が授業再開
- 一方で、現在も小中学校24校、高校2校の児童生徒は他の学校、施設に間借りして授業を実施
- 小学校では4校が同一校舎において合同で授業を再開している例も

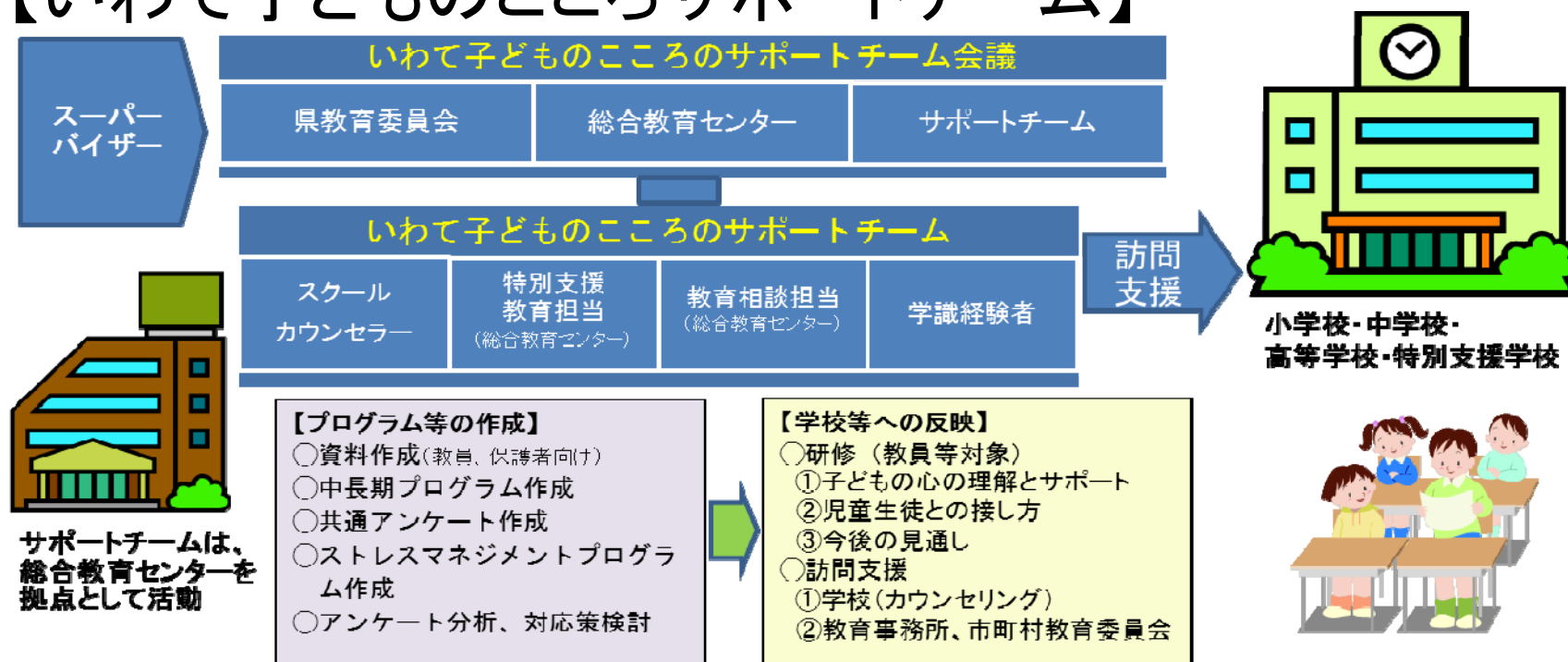


大槌町立吉里吉里小学校で授業を再開した大槌町立大槌北小学校の児童

## 復興に向けた取組1

# 中長期にわたる児童生徒の心のサポート

## 【いわて子どものこころサポートチーム】



今回の大震災津波により、心にダメージを受けた児童生徒の心のサポートのために、臨床心理士等で構成する「いわて子どものこころのサポートチーム」を結成し、組織的・継続的に支援を行う。

## 復興に向けた取組2

# 「いわての復興教育」プログラムの推進

## 復興教育の基本的な考え方

これまでにない新たな試みをはじめるとは、以下に示す4つの「復興教育の視点」に基づいて教育内容を見直した上で、再構築を行うもの

○ひとづくり

郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育てる

○体験から学ぶ

今回の震災津波と向き合い、この体験そのものを「教材」とし、児童生徒の「生きる力」をはぐくむ

○組織的  
有機的指導

震災津波に際した一連の対応を、学校の教育活動として有機的に関連付けて指導する

○各校の実情に応じた内容

復興教育を学校経営に位置付け、各校の状況や児童生徒及び地域のニーズを踏まえて取り組む

### 主な教育内容

健康教育  
心のケア

キャリア教育

道徳教育

防災教育

ボランティア教育

各教科指導

地域との交流

他地区との交流

### 県教育委員会の取組

緊急的な取組(H23)⇒基本的な考え方・プログラム概要の検討 等  
短期的取組(H23~24)⇒実践事例の収集、視点の整理・分類 等  
中期的取組(H25~27)⇒復興教育プログラムの検討と見直し 等

# 防災機能を備えた学校施設の整備

【イメージ】

食糧・水・毛布等の  
備蓄スペース確保

簡易トイレの備蓄  
プール水の利用ポンプ

可搬式発電機の備蓄  
燃料の備蓄

災害時有線電話  
無線通信設備

自主防災組織の活動支援機能を付加



# 「いわての学び希望基金」の創設

- 保護者を失った子どもたちなどが自らの希望に沿った学校を卒業し、社会人として独り立ちするまで、息の長い支援を行うため、「いわての学び希望基金」を創設
- 子どもたちが社会に出るまでに必要な「くらし」と「まなび」に要する経費の支援等を実施
- 県からの資金拠出のほか、民間（個人・法人）からの寄付を受け



# 御礼・継続的な支援のお願い

- 大震災発生後、これまでの国・他自治体・NGO等の皆さまの温かい御支援に、この場をお借りして感謝申し上げます。
- 子どもたちは、岩手全体の希望。子どもたちそれぞれの将来の夢や希望が、今回の震災によって壊されることがないように、長期的な支援が必要と認識。
- 今後とも本県教育への継続的な御支援をお願い申し上げます。



陸前高田の一本松